

大学生の携帯メールの利用態度に関する研究

—広島市内の大学生を対象として—

記 谷 康 之

(受付・2003年5月8日)

1. はじめに

大学生にとって携帯電話・PHS（以下、携帯電話と表記する）は、既に必携のアイテムとなっている。最近ではプリペイドタイプの携帯電話を子どもや高齢者にプレゼントするテレビコマーシャルも見られるほどに世代を越えて普及している。

現在の加入者数は携帯電話とPHSとを合わせて8177万件（電気通信事業者協会調べ、2003年4月末現在）であり、人口の約70%が加入していることになる。したがって新規加入は近い将来に頭打ちとなる可能性が高く、企業はシェア確保のため、新しい機種ごとに新機能を追加し、付加価値を高めようとしている。現在ではメールの送受信をはじめ、静止画の撮影や動画の記録、インターネット接続機能やアドレス・スケジュール機能など、本来の電話機能を越え、コミュニケーション機能に特化された小型パーソナルコンピュータの様相を呈している。

他方で、こうしたコミュニケーション機能は、公共の場での利用マナーの悪さといったことから、犯罪にいたるケースまで、いくつかの社会問題も引き起こしている。

そのため携帯電話に関するマスメディアに人々の関心は高い。しかし、マスメディアがとりあげる場合は注目を集めやすい事例をとりあげることも多く、その事例では多くの大学生が携帯電話や情報機器を実際どのように使っているのかまでは明らかにされていない。

また「メル友」もその事例の一つである。携帯メールによって、広い範

囲のコミュニケーションも可能となった。直接面識のない人との携帯メールを通じた親密な関係も生まれ、この友人関係は「メル友」と呼ばれている。ところが大学生は「メル友」をどのくらい持っているのか、どのようなコミュニケーションをしているのかを実証的に研究している例は少ない。

そこで、携帯電話やコンピュータが学生にどのように利用されているか、そして携帯メールやEメールによるコミュニケーション機能を使い、どのような友人関係が成り立っているのかを明らかにするのが本調査の目的である。

2. 調査の概要と方法

広島市内の大学生を対象に、携帯電話が電話の機能のほかにもつ、インターネット接続機能、Eメール機能について、その利用の有無や頻度、ならびに利用者の社会心理的要因について、アンケート調査を実施した。アンケートは情報処理の基礎科目の受講者を対象に授業中に配布し回答を集めた。

調査質問紙(資料1)は590名に配布し、全て回収した。アンケート調査の有効回答は423名(男子315名、女子108名、有効回答率72%)であった。配布した授業科目の関係から(基礎情報教育科目)、390名が1年生(18~19歳)であった。

3. 結果と考察

3-1 情報機器

3-1-1 パソコンの利用状況(図1)

「自宅・学校のどちらでも利用している」という回答の割合は44.0%で

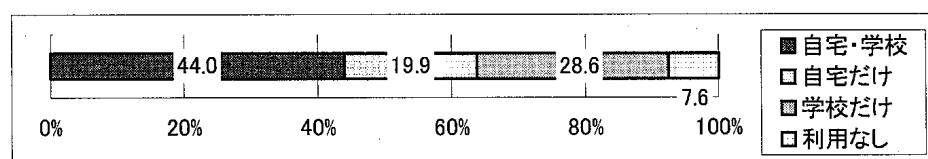


図1 現在パソコンをご利用ですか (N=423)

あった。また「自宅だけ」、「学校だけ」も含めると90%を超えた。生活のいずれかの場面でパソコンを使っていることがわかる。

3-1-2 携帯電話の利用状況 (図2)

携帯電話の利用を問う質問では、「現在利用している」という回答は95.5%であった。「以前利用していた」という回答を加えると96.2%となり、回答者のほとんどが携帯電話の利用を経験していた。

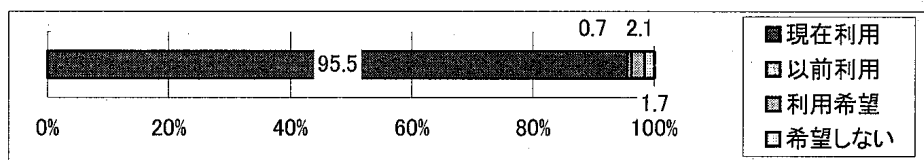


図2 携帯電話を利用したことがありますか。またない場合利用したいと思いますか (N=423)

3-1-3 パソコンおよび携帯電話の利用開始時期 (図3)

パソコンの利用開始が多くなるのは1995年であった。そして2000年をピークに減少していた。1995年は現在のパソコン環境のデファクトスタンダードを決めることとなった Microsoft 社の Windows95 が発売された年である。また携帯電話の利用開始が多くなるのは1997年である。そして1999年に急増し2000年をピークに減少していた。回答者の多くは大学1年生であることから考えると1997年は中学校入学の年にあたる。家族間の連絡手段として使われはじめたと考えられることができる。

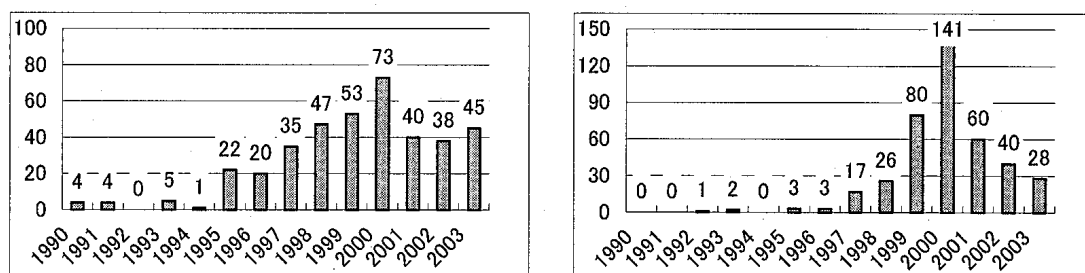


図3 パソコンやワープロを利用し始めた年 (N=387) および携帯電話を利用し始めた年 (N=401) はいつですか

3-1-4 携帯電話によるインターネットの情報サービスの利用状況 (図4, 5)

携帯電話から利用するインターネットの情報サービスは、44.2%が「よく利用している」と答えていた。また「たまに利用している」という人を加えると90%を超え、インターネット機能の利用も定着していると考えられる。

また利用している情報サービスで一番多かったのが「待ち受け画面・着メロデータのサービス」であった。次いで「天気」や「新着情報・最新ニュース」の時事情報であった。

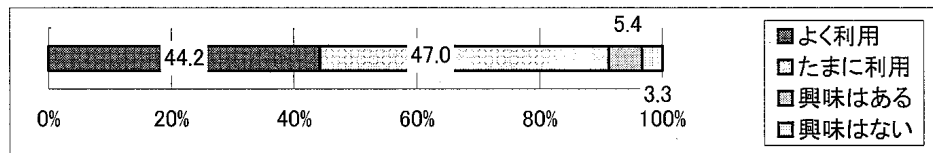


図4 携帯電話でインターネットの情報サービスを利用したことがありますか。またない場合興味をお持ちですか (N=423)

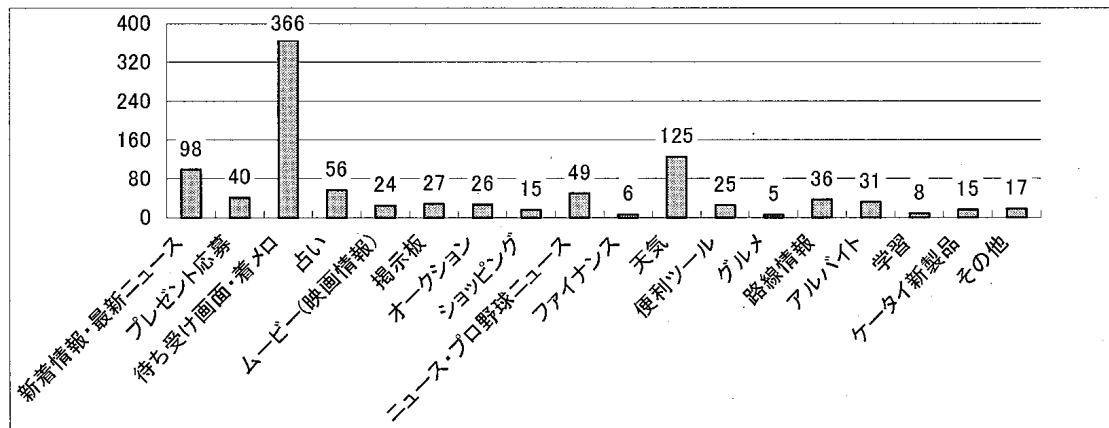


図5 携帯電話でどのようなインターネットの情報サービスを利用したことがありますか (複数回答, N=423)

3-1-5 情報機器の利用状況

2002年7月に報告された内閣府による「第4回情報化社会と青少年に関する調査報告書」では、大学生のパソコンの利用率は69.0%であった。本調査では90%を超えていたが、これは調査が情報教育科目の授業で行

われたため「学校で利用する」という回答が増えたことによるものであろう。学生がパソコンを利用する環境がそろっているということには変わらない。また前掲報告書では大学生の携帯電話の利用率が94.0%であり、本調査ではほとんど同様の結果であった。大学生の必携のアイテムであるということはデータの上からも裏付けられたといえる。携帯電話を使った情報サービスの利用は前掲報告書では「利用しない」という回答が32.0%であるのに対して本調査では8.7%であった。電話機能だけでなく情報サービスの利用も定着しており、携帯電話の諸機能を使いこなしている様子がうかがえる。

3-2 携帯メール

3-2-1 携帯メールの利用状況・通信頻度 (図6, 7)

携帯電話でメールを利用したことがありますかという質問に対して84.6%が「よく利用している」と回答した。「たまに利用する」という回答を加えると95%となり携帯電話利用者はほとんど携帯メールを利用しているということになる。

また携帯メールの利用頻度は1日5回以上が74.0%、1日1回程度を加えると90.5%が毎日携帯メールを利用していると回答していた。

橋元・斑目・小松・アヌラーグ・栗原 (2001) によると携帯電話によ

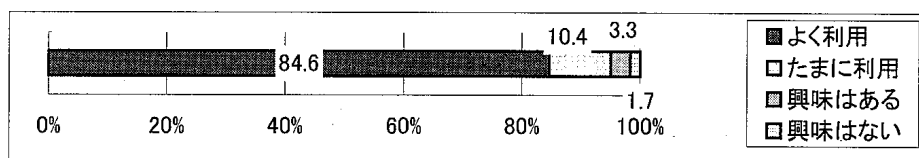


図6 携帯電話でメールを利用したことがありますか (N=423)

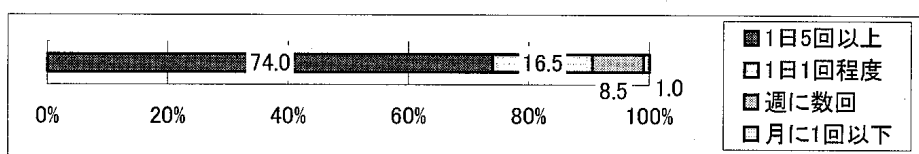


図7 携帯電話でどのくらいの頻度でメールの送受信をしますか (N=400)

る文字通信の利用状況は現在携帯電話を利用している者で10代が90.9%、20代は80.7%が「利用している」と報告している。本調査もほぼ同様の結果であった。携帯電話利用者のほとんどは携帯メールを利用していることがわかる。利用頻度は橋元ら(2001)では1日に5回以上利用している者は、10代では54.0%、20代では16.7%が利用していると報告している。本調査では1日に5回以上利用しているという回答は74.0%あり10代で比較しても多いといえる。

3-2-2 一日平均通信数 (図8, 9)

一日の携帯メールの平均受信数は(5通より多く)25通まで受信するという回答が46.4%であった。次いで5通までが35.2%であった。また25通より多く受信する、つまり1時間に1回以上の利用が20%近くもあった。

一日の携帯メールの平均送信数は(5通より多く)25通まで送信するという回答が46.1%であった。次いで5通までが37.1%である。また25通より多く送信するも受信と同様に20%近くもあった。

受信数・送信数は一日平均が受信数が17.9通、送信数が16.9通であった。橋元ら(2001)は10代から30代の各世代の中で最もやりとりの多い10代で一週間の受信が63.0通、送信が60.4通と報告しているのと比較する

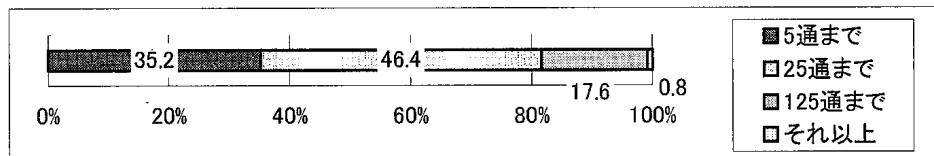


図8 携帯電話を使って一日平均何通くらい受信しますか (N=392)

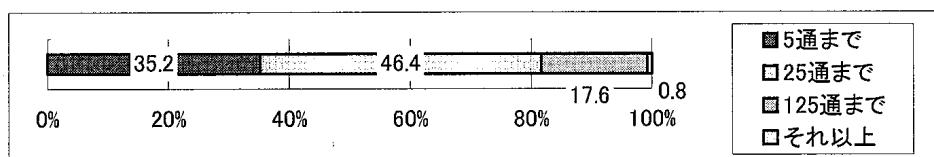


図9 携帯電話を使って一日平均何通くらい送信しますか (N=388)

と2倍の違いがあり、積極的に活用されていることがわかる。

3-2-3 携帯メールの内容・利用のきっかけ・利用目的 (図10~12)

携帯メールの内容は「待ち合わせの約束・連絡」が一番多く169件あった。次いで「できごとや気持ちの伝達」が多く115件、「特に用件のない伝言」も37件あった。

携帯メールの利用のきっかけは「友人・恋人・家族が利用しているか

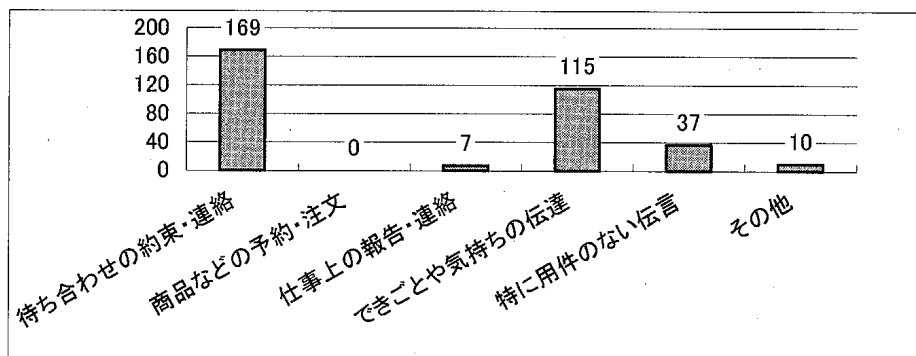


図10 携帯電話でどのような内容のメールを送信・受信することが多いですか (N=338)

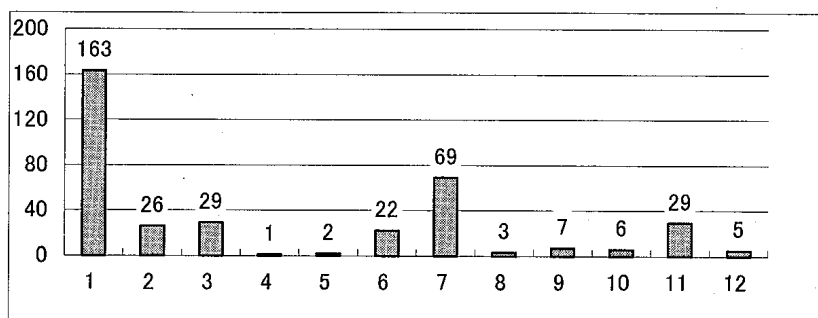


図11 携帯電話でメールを利用し始めたきっかけはなんですか (N=362)

- | | |
|-------------------------|----------------------------|
| 1. 友人・恋人・家族が利用しているから | 8. 仕事上(学校の勉強上)の理由があったから |
| 2. おもしろそうなので | |
| 3. 時間・場所にかかわらず利用できるから | 9. 購入した携帯電話の付属機能としてついていたから |
| 4. 以前ポケベルを利用していたから | |
| 5. テレビや雑誌などでみて興味をもったから | 10. パソコンがなくてもEメールを利用できるから |
| 6. 通信費用が安くてすむから | 11. 特に理由はなかったがなんとなく |
| 7. 待ち合わせの時間や場所の連絡に便利だから | 12. その他 |

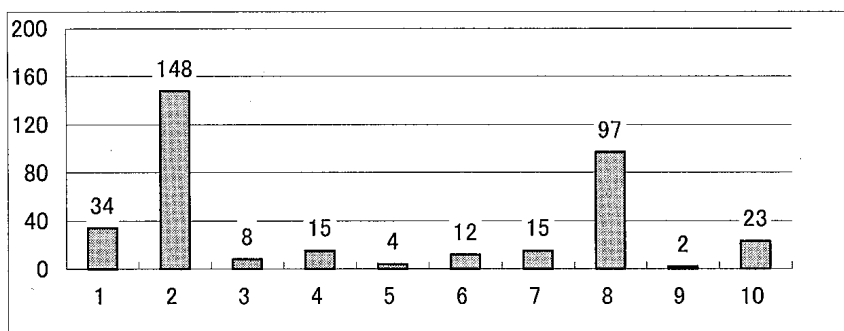


図12 どのような時に携帯電話でメールを使うことが多いですか (N=358)

- | | |
|----------------------|---------------------|
| 1. 相手が電話に出られないとき | 6. 相手と電話で直接話したくないとき |
| 2. 急用ではないが伝えることがあるとき | 7. 自分が声を出せない場所にいるとき |
| 3. 早朝・深夜に連絡をとりたいとき | 8. ひまをつぶしたいとき |
| 4. 相手が忙しいと思うとき | 9. パソコンの使えない環境にあるとき |
| 5. 複数の人に同じ内容を伝えたいとき | 10. その他 |

ら」という回答が163件と一番多く、次いで「待ち合わせの時間や場所の連絡に便利だから」という回答が69件であった。

携帯メールの利用目的は、「急用ではないが伝えることがあるとき」という回答が148件で一番多かった。次いで「ひまをつぶしたいとき」が97件であった。

携帯メールの利用内容は「待ち合わせの約束・連絡」がもっとも多かった。これは利用のきっかけで「友人・恋人・家族が利用しているから」、「待ち合わせの時間や場所の連絡に便利である」という回答と関連している。次いで「できごとや気持ちの伝達」が多かったが、これは携帯メールの利用目的で「急用ではないが伝えることがあるとき」、「ひまをつぶしたいとき」が回答として多かったことと関連している。したがって橋元ら(2001)で示された、携帯メールでは緊急性の低い情報伝達およびコミュニケーションに使われる傾向があるということをも本調査でも認められた。

3-2-4 携帯メールの相手 (図13~15)

携帯メールでよくメールをやりとりする相手の数を問う質問に対して

記谷：大学生の携帯メールの利用態度に関する研究

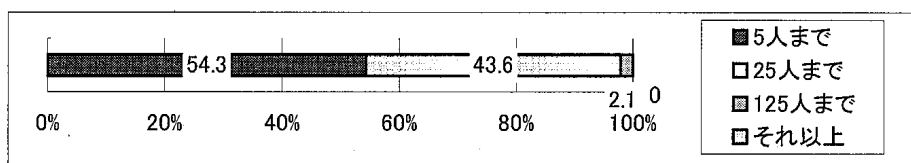


図13 携帯メールでよくメールをやりとりする相手は何人くらいですか (N=381)

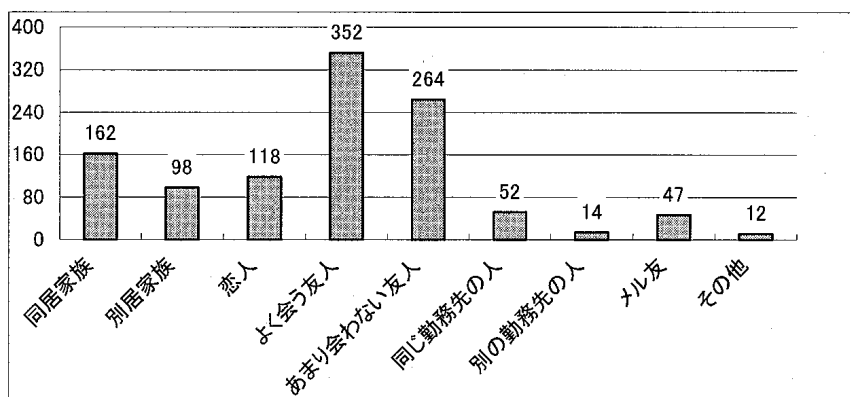


図14 携帯メールでやりとりする相手はどのような人ですか (複数回答)

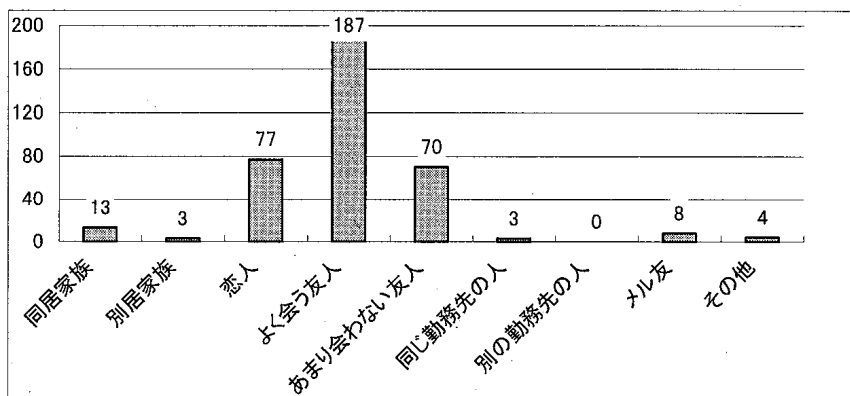


図15 携帯メールで最も多くやりとりする相手はどのような人ですか (N=398)

は相手が5人までという回答が54.3%で、次いで(5人より多く)25人までが43.6%で、両者を合わせると約98%であった。

携帯メールでやりとりする相手は、「よく会う友人」という回答が352件と一番多く、次いで「あまり会わない友人」が264件、そして「同居家族」が162件、「恋人」が118件、「別居家族」が98件という順であった。

また最も多くやりとりする相手は、これも「よく会う友人」という回答が圧倒的に多く187件であった。次いで「恋人」が77件、「あまり会わ

ない友人」が70件であった。

携帯メールをやりとりする相手数については平均で7.4人であった。またその相手は「よく会う友人」が最も多かった。橋元ら(2001)の調査では最もやりとりの多い10代で6～9人の相手がいるという回答が多く、相手は「よく会う友人」という回答が他を10%以上離して70.1%で一番多いという報告と一致している。また巷間で話題になっている「メル友」、すなわち直接対面したことはないが携帯メールを通じて日常的にコミュニケーションを交わしている友人については、これを最もやり取りする相手とした回答は少なかった。

3-2-5 携帯メール利用後のコミュニケーションの変化 (図16)

携帯メールの利用によって「親近感」、「電話をする」、「直接会う」のいずれのコミュニケーションも「変わらない」という回答が半数を大きく超えた。加えて「親近感」では「増えた」という回答が40.6%、「減った」という回答は0.5%、「電話をする」は「増えた」という回答が18.3%、「減った」という回答が15.8%、「直接会う」については「増えた」という回答が25.9%と「減った」という4.8%よりも多かった。

携帯メール利用とコミュニケーションの変化は、メールの利用によって「親近感」、「直接会う」、「電話をする」のいずれも「変わらない」と回答しているものの、携帯メールの利用があってもなお「直接会う」回数が増えていると感じていることは少し奇異に感じる。橋元ら(2001)も同様の結果が表れており、分析の結果、交友の親疎と関係しているこ

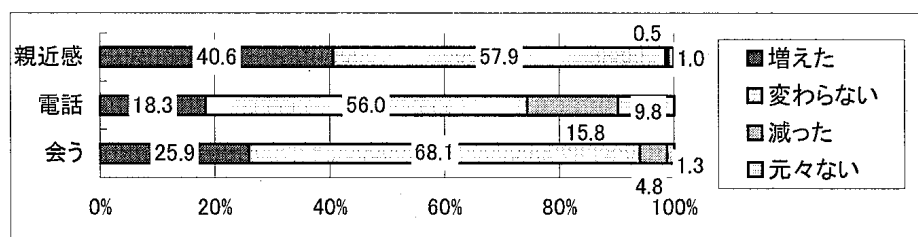


図16 携帯メールで最も多くやりとりする相手とはメールを使う前と比べて次のようなことはどう変わりましたか (N=398)

とを明らかにし、対面回数が増えた者ほど深いつきあいを好むと述べている。携帯メールの利用によって対面回数が減少する、つまり直接会うことの代替手段として携帯メールが用いられているわけではないことが推察される。

携帯メールは携帯電話の単なる付属機能ではなく、それ自体電話機能とは異なるコミュニケーションモードを持った独立したメディアとして利用されていることがうかがえる。

3-2-6 携帯メールでの絵文字の利用 (図17, 18)

絵文字を使ったメールの利用は、「よく利用する」という回答が22.9%、「たまに利用する」という回答が35.4%で、過半数はメッセージに絵文字を利用したことがあるという結果であった。

また絵文字を利用する目的は、「感情表現をつけくわえるため」という回答が123件、次いで「楽しくするため」が66件、そして「親しみを示す

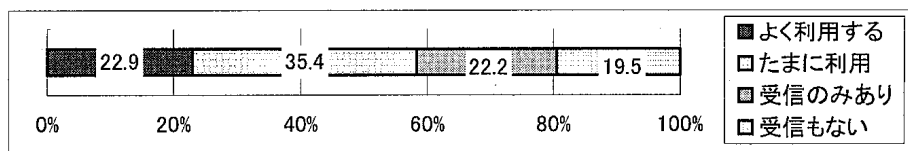


図17 絵文字を多く使ったメールを使うことがありますか (N=401)

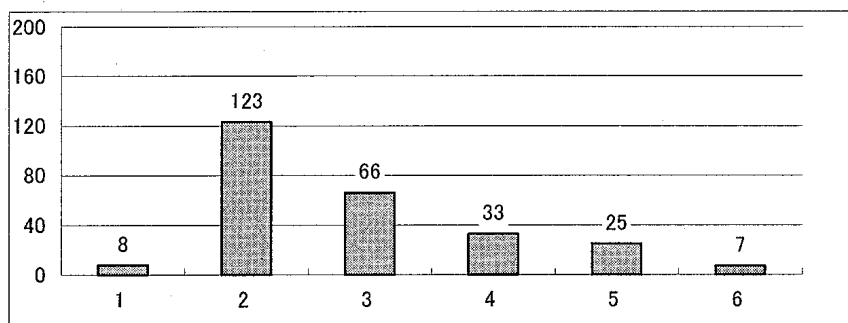


図18 主にどういう目的で絵文字を多く使ったメールを使いますか (N=262)

- | | |
|------------------|---------------|
| 1. メッセージを短くするため | 4. 親しみを示すため |
| 2. 感情表現をつけくわえるため | 5. 軽い雰囲気を出すため |
| 3. 楽しくするため | 6. その他 |

ため」が33件, 「軽い雰囲気を出すため」が25件であった。

3-3 インターネットとEメール

3-3-1 インターネットの利用状況 (図19)

「自宅・学校のどちらでも利用している」割合は38.8%であった。また「自宅だけ」, 「学校だけ」も含めると80%を超えた。前出のパソコンの利用に比べると10%少ない。また「利用していない」という回答も15.8%あった。

橋元ら(2001)の調査では首都圏の若年層(15~39歳)では, 61.2%がインターネットを利用しており, 年代別では最も多い20代で65.9%が利用していると報告している。また「利用したことがない」という回答は28.9%で, 本調査と比較すると10%以上多い。これは本調査が情報教育科目の授業で行われたため「学校で利用する」という回答が増えたことによるものであろう。

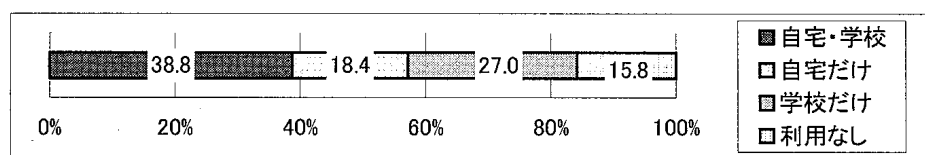


図19 インターネットを利用した経験がありますか (N=423)

3-3-2 インターネットを利用しない理由 (図20)

インターネットを利用しない理由は, 「利用する機器が自分のまわりがない」という回答が21件, 次いで「電話代や利用料金が低い」, 「操作がめんどろ」, 「とくに必要性を感じない」が7件, 「インターネットが何かよくわからない」が6件であった。

3-3-3 Eメールと携帯メール

本調査ではEメールによるコミュニケーション行動を携帯電話によるものとパソコンによるものとで区別して調べた。その結果携帯メールの

記谷：大学生の携帯メールの利用態度に関する研究

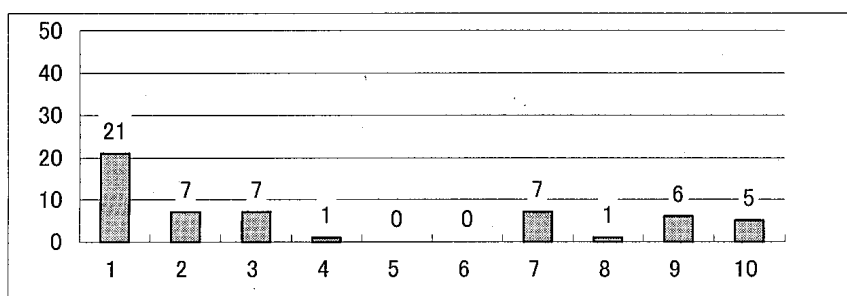


図20 インターネットを利用しないのはなぜですか (N=55)

- | | |
|---------------------------|-----------------------|
| 1. 利用する機器が自分のまわりがない | 7. とくに必要性を感じない |
| 2. 電話代や利用料金が低い | 8. 回線が混んでいてなかなかつながらない |
| 3. 操作がめんどろ | 9. インターネットが何かよくわからない |
| 4. おもしろい情報があまりない | 10. その他 |
| 5. 不快な情報・有害な情報が多い | |
| 6. プライバシーの侵害や情報のセキュリティが不安 | |

利用者数 (402名) に比べてパソコンによるEメールの利用者 (202名) は少なかった。これはパソコンの利用者、インターネットの利用者が携帯電話の利用者に比べて少ないことが理由として大きい。パソコンの電源を入れEメールソフトウェアを起動して利用するまでに時間がかかることや、キーボード操作を苦手とするために利用しにくいということも理由として考えられる。

3-3-4 Eメールの通信数 (図21, 22)

一日のEメールの平均受信数は5通まで受信するという回答が76.6%であった。次いで (5通より多く) 25通までが17.7%であった。また25通より多く受信する、つまり1時間に1回以上の利用が5.6%あった。

一日のEメールの平均送信数は5通まで送信するという回答が82.1%であった。次いで (5通より多く) 25通までが12.6%であった。また25通より多く送信する、つまり1時間に1回以上の利用が5.3%あった。

Eメールの受信数・送信数は一日平均が受信数が6.6通、送信数が5.6通であった。橋元ら (2001) は10代から30代までの全体で一週間の受信が26.7通、送信が18.2通と報告しているのと比較すると本調査の方が約2倍

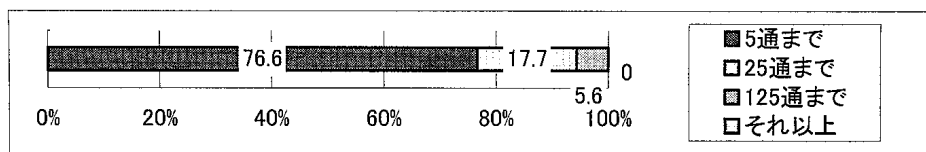


図21 Eメールを一日平均何通受信しますか (N=124)

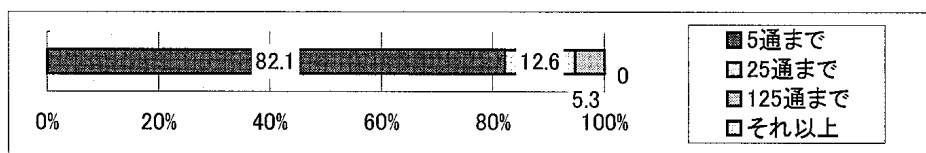


図22 Eメールを一日平均何通送信しますか (N=95)

多いが、世代間で最も多かった10代では、一週間で受信が50.8通、送信が42.3通あり本調査は若干少なかった。

3-3-5 Eメールの相手 (図23~25)

Eメールでよくメールをやりとりする相手の数を問う質問に対しては相手が5人までという回答が92.1%で、次いで(5人より多く)25人までが5.9%、そして(25人より多く)125人までが2.0%であった。

Eメールでやりとりする相手は、「ふだんあまり会わない友人」という回答が62件と一番多く、次いで「よく会う友人」が51件が多かった。また最も多くやりとりする相手は、これも「ふだんあまり会わない友人」という回答が多く32件であった。次いで「よく会う友人」が23件、「メル友」が10件であった。

Eメールをやりとりする相手数については平均で3.8人であった。またその相手は「ふだんあまり会わない友人」が最も多かった。橋元ら

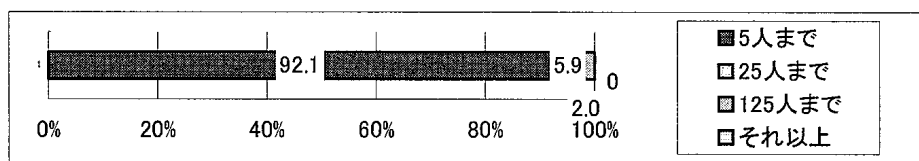


図23 Eメールでよくメールをやりとりする相手は何人くらいですか (N=102)

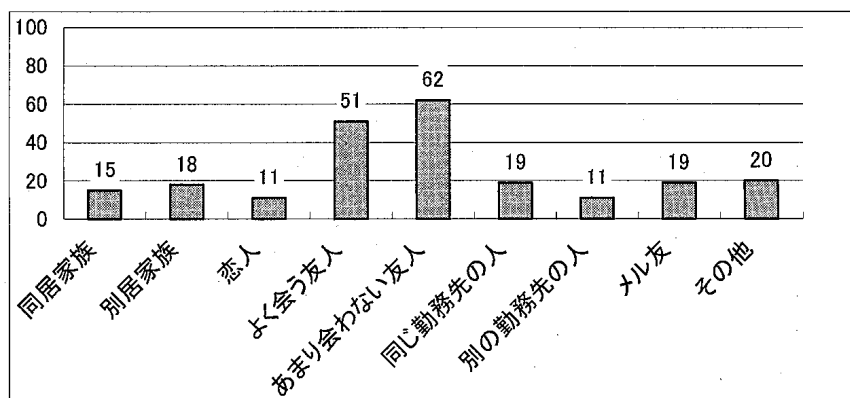


図24 Eメールでやりとりする相手はどのような人ですか (複数回答)

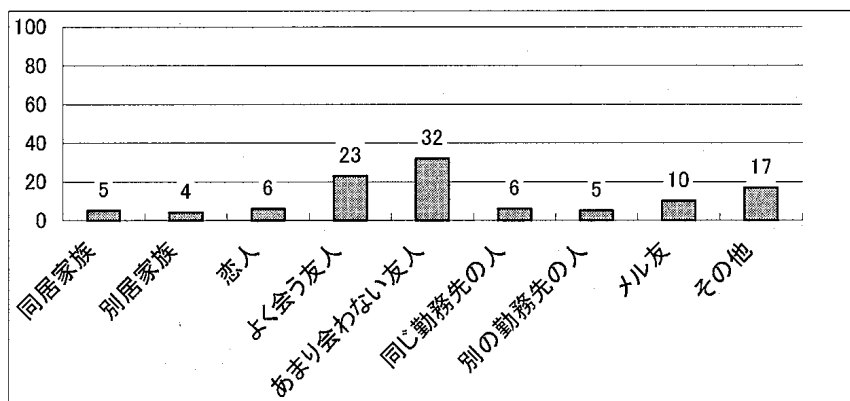


図25 Eメールで最も多くやりとりする相手はどのような人ですか (N=108)

(2001) の調査ではEメールをやりとりする相手の数は平均で5.7人の相手があり、相手については「ふだんあまり会わない友人」という回答が最も多く76.4%であったと報告しており、相手の人数は本調査では少なかったが、やりとりの相手は同じである。

3-3-6 Eメール利用後のコミュニケーションの変化 (図26)

Eメールの利用によって「親近感」、「直接会う」、「電話をする」のコミュニケーションに関するいずれのことがらも「変わらない」という回答が60%を大きく超えて多かった。加えて親近感では「増えた」という回答が20.8%、「減った」という回答は1.0%、「元々ない」が9.4%であった。「直接会う」については「増えた」という回答が9.0%、「減った」という回答は6.0%、「元々ない」は15.9%であった。「電話をする」は「増

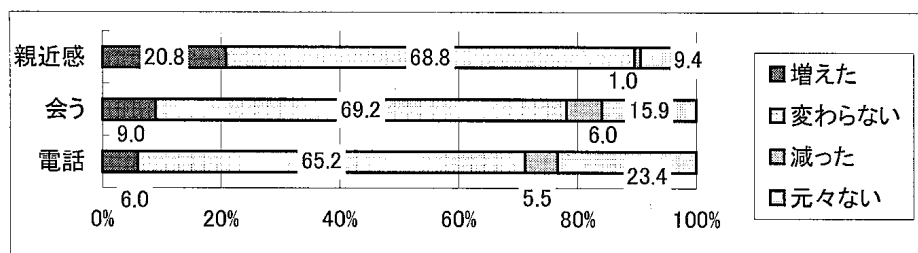


図26 Eメールで最も多くやりとりする相手とはメールを使う前と比べて次のようなことはどう変わりましたか (N=201)

えた」という回答が6.0%、「減った」が5.5%、「元々ない」が23.4%であった。

Eメール利用とコミュニケーションの変化は親近感、直接会うこと、電話をすることいずれも約70%が変わらないと感じており、Eメールの利用によって、他のコミュニケーションへは影響がほとんど見られない。橋元ら(2001)では、Eメール利用によって電話をする回数が減ったという回答が39.7%あり、電話はEメールに置き換えられやすいと報告しており、その理由をEメールの非同期性という特性を活用しているためであると述べている。同じ文字通信であってもEメールは携帯メールとは異なり、電話によるコミュニケーションと交換可能なものとして利用されているということであろうか。本調査ではそのような結論にいたる回答は得られなかった。

3-4 他者との言語的コミュニケーション・社会心理尺度

3-4-1 他者との言語的コミュニケーションと手段 (図27)

全体に「Eメールを利用する」という回答は少なかった。また相手が目上の人である場合に「携帯メール」と回答する割合が少なく、「電話をする」あるいは「会って話をする」という回答が多かった。つまり相手が目上の人という場合には、同期性のある手段が選択される傾向がある。そして友人との日常的な情報交換およびおしゃべりに関しては、携帯メールがとって代わったのであろうか、「電話で話す」という割合が少なくなっている。

記谷：大学生の携帯メールの利用態度に関する研究

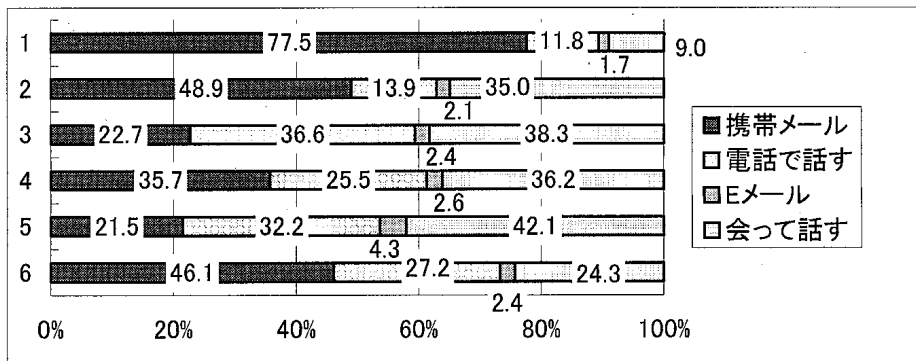


図27 次のようなことのためにどのような手段を最もよく利用していますか (N=423)

- | | |
|--------------------------|-------------------|
| 1. 会合などの連絡など友人との日常的な情報交換 | 4. 友人の悩みごとの相談をする |
| 2. 友人との特に目的のないおしゃべり | 5. 目上の人にお世話になったお礼 |
| 3. 目上の人に対して改まった頼みごとをする | 6. 友人からのプレゼントのお礼 |

3-4-2 社会心理的尺度

回答者の社会心理的側面を調べるために、社交性尺度、シャイネス尺度、対人不安尺度を用い、それぞれの尺度で得点を求めた。

社交性は外向性の構成要素であるが、外交的であるという意味ではなく、他者と一緒にいることを好むという意味で用い、社交性尺度を定義している (Buss, 1986)。

シャイな人は、人と一緒にいると、緊張して、心配性になり、ぎこちなさ、はにかみ、不快といった反応を示し、通常期待される行動がとれなくなってしまうことをシャイネスと定義し尺度を構成している (Buss, 1986)。

対人不安とは、人前に出たときに感じる不快感のことである。不快感に耐え切れなくなると、激しい不安としてぎこちない身ぶりや話し方に表れることもある。こうした行動は聴衆のいる公的場面でも二者間の関係にも表れる (Buss, 1986)。対人不安尺度はこうした特性を尺度として測定できるようにしたものである。

社交性尺度得点は平均値が9.9、標準偏差が2.8、シャイネス尺度は平均

値が16.3, 標準偏差が5.1, 対人不安尺度は平均値が9.6, 標準偏差が3.1であった。

3-4-3 一番の友達とのコミュニケーション (図28)

交友の親疎を調べる目的で用いた項目である。

「1. 一番の友達は親切にしてくれる」は、54.1%が「あてはまる」と回答した。「2. 一番の友達とは秘密の話をする」は、49.9%が「あてはまる」と回答した。「3. 一番の友達には困っていることを話しやすい」は、57.7%が「あてはまる」と回答した。「4. 一番の友達とは一緒にいるだけで楽しい」は、60.5%が「あてはまる」と回答した。「5. 一番の友達とはたびたび会っている」は、43.0%が「あてはまる」と回答した。「6. 一番の友達とはなんとなく気が合う」は、63.6%が「あてはまる」と回答した。

全ての項目で「あてはまる」という回答が最も多かった。「5. 一番の友達とはたびたび会っている」は「ときどきあてはまる」が40.0%で、程度については多少違いが見られただけであった。

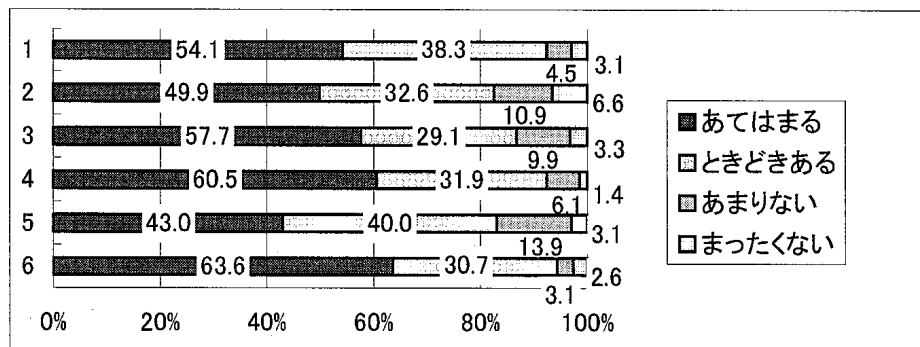


図28 一番の友達とはどんなつきあいかたをしていますか (N=423)

3-4-4 他者との会話 (図29)

近所の人については、「よく話す」が9.0%、「ときどき話す」が32.9%、「あまり話さない」が38.1%、「まったく話さない」が20.1%であった。親戚については「よく話す」が9.7%、ときどき話す47.5%、「あまり話さ

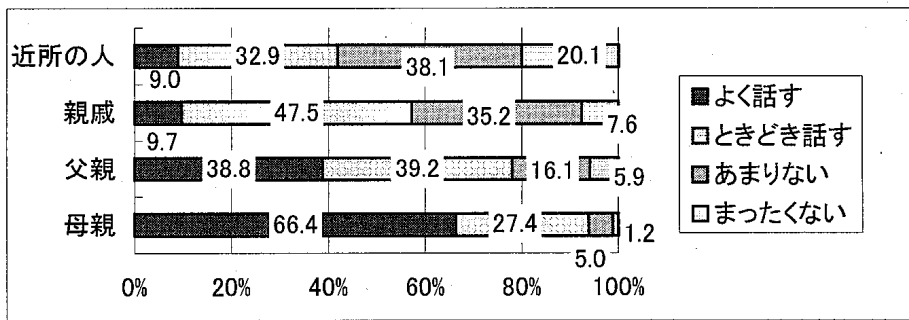


図29 ふだんこのような人とよく話をしますか (N=423)

ない」が35.2%、「まったく話さない」が7.6%であった。父親については「よく話す」が38.8%、ときどき話す39.2%、「あまり話さない」が16.1%、「まったく話さない」が5.9%であった。母親については「よく話す」が66.4%、ときどき話す27.4%、「あまり話さない」が5.0%、「まったく話さない」が1.2%であった。

親である父親、母親とは程度の違いはあるが多数が会話をしている。母親とは、「よく話す」と「ときどき話す」を合わせると93.8%であった。思春期以降コミュニケーションが少なくなるといわれる父親は、「よく話す」と「ときどき話す」を合わせると78.0%であった。

一方親以外となると「よく話す」は10%以下となり「ときどき話す」を合わせても50%かそれ以下である。

3-4-5 気分や感情とメディアの選択 (図30)

情報メディアの選択肢は多様化し、気分や感情によってメディアの使い分けを行うことができる環境が整ってきた。そこで7つの気分や感情の状況別に対応するメディア行動をたずねた。

「とてもよいことがあった時」については、「親しい人にメールを送る」が138件で最も多かった。「面白い話を知った時」については、「親しい人にメールを送る」が162件で最も多かった。「さびしい気分の時」については、「何もしない」が127件で最も多かった。「怒っている時」については、「何もしない」が234件であった。「イライラしている時」については、

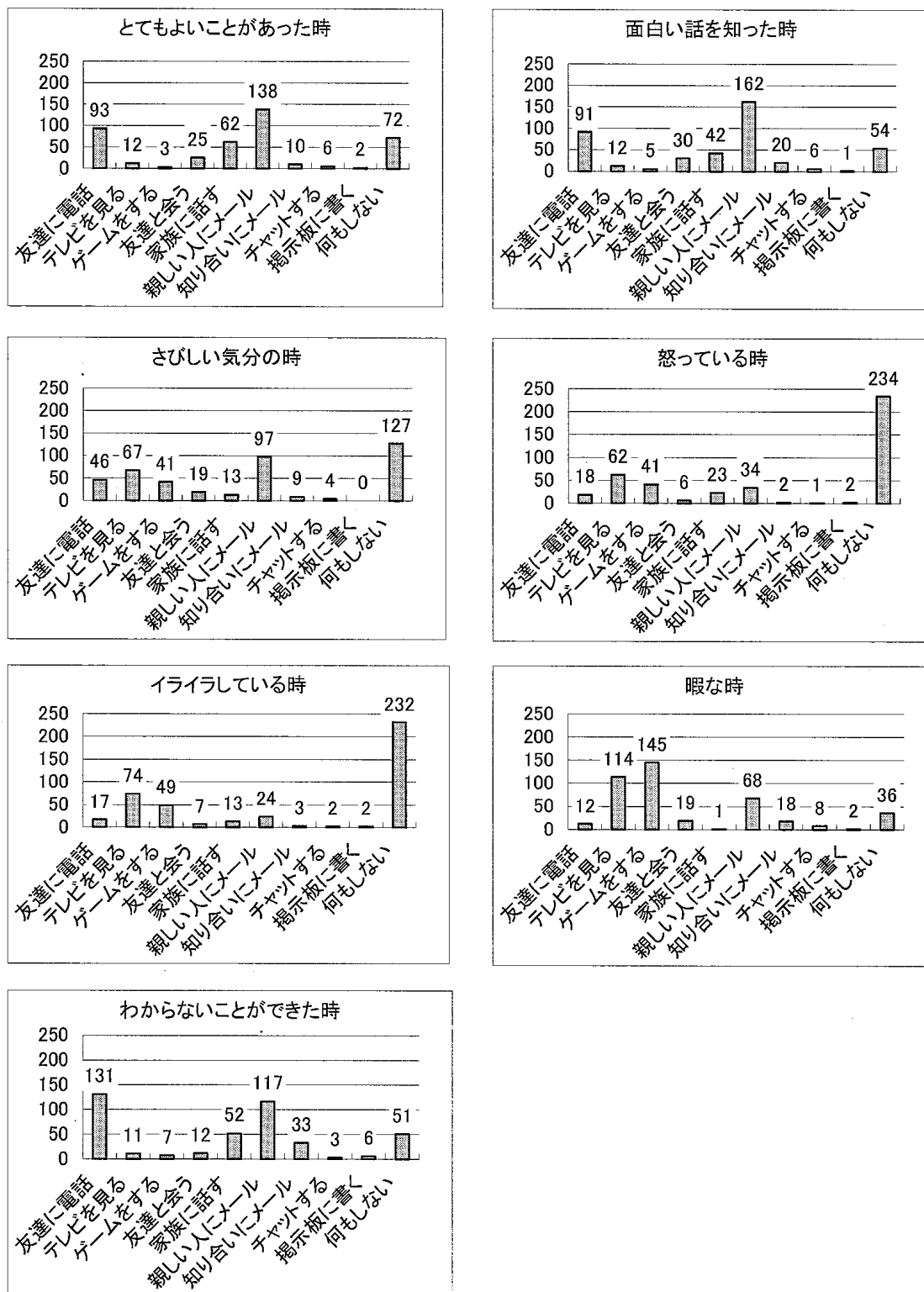


図30 このような気分や気持ちであったとしたらどのような対応をしますか (N=423)

「何もしない」が232件であった。「暇な時」については「ゲームをする」が145件で最も多かった。「わからないことができた時」については、「友達に電話する」が131件で最も多かった。

全体的に、「親しい人にメールを送る」というのが多く、次いで「友達に電話をする」という回答が多かった。いずれも非対面のコミュニケーションである。

また「さびしい気分の時」、「怒っている時」、「イライラしている時」など他者に向けづらい否定的な感情や気分の時には「何もしない」という回答が多かった。

緩衝型で自分一人で利用できるメディアである「テレビを見る」や「ゲームをする」という回答が最も多かったのは「暇な時」だった。このメディアは比較的どの状況でも利用されるように思えるが、「暇な時」以外には「さびしい気分の時」、「怒っている時」、「イライラしている時」で多かった。

「チャットする」と「掲示板に書く」というメディア行動の選択は全体的に少なかった。ここでとりあげた7つの気分・感情については、匿名性のあるメディアは使われにくいようである。

3-4-6 コミュニケーションと携帯メールの関係（表1）

コミュニケーションの態様と携帯メールの関係を調べるために、社会心理尺度、友達とのコミュニケーションおよび他者との会話を加えて説明変数に、携帯メールの受信数、送信数、相手数を目的変数とした重回帰分析を行った（表1）。

その結果、社会心理尺度のうち社交性尺度、シャイネス尺度で携帯メール利用との有意な効果が認められた（ $p < .01$ ）。つまり社交性が高いほどメールの利用頻度は多くなる、メールの送信数は多くなる、メールの相手数は多くなるという効果である。またシャイネスが高いほど、メール利用の頻度は少なくなる、メールの送受信数は少なくなる、メールの

表 1 携帯メール利用の重回帰分析

		携帯メール の頻度	携帯メール の受信数	携帯メール の送信数	携帯メール の相手数
社会心理 尺度	社交性尺度	0.145**	0.098+	0.120*	0.123*
	シャイネス尺度	-0.245**	-0.348**	-0.302**	-0.182*
	対人不安尺度	0.013	0.135+	0.115	0.005
友達との コミュニ ケーション	親切にしてくれる	0.024	-0.045	-0.066	-0.008
	秘密の話をする	0.063	0.027	0.089	0.022
	困っていることを話す	0.069	0.082	0.074	-0.047
	一緒にいて楽しい	-0.013	-0.050	-0.042	0.107
	たびたび会う	0.094+	0.059	0.034	0.053
	なんとなく気が合う	0.013	0.001	-0.016	-0.019
他者との 会話	近所の人	0.059	0.081	0.073	0.016
	親戚	-0.089	0.010	-0.003	-0.003
	父親	-0.018	-0.039	-0.030	0.021
	母親	-0.011	0.022	0.040	0.053
統計量	N	402	402	402	402
	決定係数	0.155**	0.122**	0.117**	0.080**
	調整済み決定係数	0.126	0.092	0.086	0.047

+ <.1 * <.05 ** <.01

相手数は少なくなるという効果である。

携帯メール以外の対人コミュニケーションと同様で、社交性が高い人ほど他者との交流を求めるので知人の数が多くなる。したがって多くの知人に対してコミュニケーションを保とうとするのでメールの送信数は多くなるということである。またシャイネスが高い人ほど人づきあいを不快に感じるので他者との交流を避け、したがってメールの利用頻度が少なくなり、送信・受信数もそれにつれて少なくなると思われる。

また友達とのコミュニケーションの項目「一番の友達とはたびたび会っている」と携帯メールの頻度に正の効果の傾向がある。これは友達とは会うことが多い人ほど携帯メールを利用する頻度が多くなるということだが、これは携帯メールの内容に「待ち合わせの約束・連絡」が多かったことに関連していると推察される。

4. まとめにかえて

休憩時間に学生と雑談をしていたときのことである。その学生の携帯電話がメールの到着を知らせた。今まで私と話をしていたその学生は会話をいきなり中断し、すぐに携帯電話を手にとり返事を打ちはじめた。私が「後で打ちなさい」と注意すると学生は「すぐに返事しないとだめなんです」と言って手を止めずそのまま返事を打ち続けたということがあった。

これまで電子メールは非同期性のものとして使われてきた。相手がいつ読むかはわからないし、返事もすぐに送ってくるとは期待しない、この特性は携帯メールにもあてはまると考えていた。だから返事は後でもかまわないだろうと思ったのである。ところがエピソードのように、たとい会話の途中であってもその場で返事を打つというような、言ってみれば無作法を平気でやってしまう学生は実は珍しくない。

巷間話題になっている携帯メールの使用による悪い影響とはこのことかと携帯メールのマナーの問題にすることはできる。しかし無作法を注意されても使ってしまうのは、その携帯性によって喚起されるものなのか、それともこの世代に特有のコミュニケーションの特徴なのか。

そして携帯メールを使って直接面識はないが親密なコミュニケーションを行う、「メル友」の存在については、広島という地域性では少ないとしても、特に若年層においては、掲示板や出会い系サイトを利用して、何人かの「メル友」をもっているのではないか。

調査の前に想定していたのは、以上のような従来の電話コミュニケーションとは異なる、携帯電話、携帯メールに特有のコミュニケーションが存在しているのではないかということであった。

しかし本調査の結果では、携帯電話やコンピュータは学生に定着しており、電話機能だけではなく、インターネットを経由した情報サービスの利用や携帯メールの送受信を、ほぼ毎日利用しているものの、携帯メールの利用では、そのコミュニケーションの相手は既存の友達が多く、とりとめ

もない情報をやりとりすることがわかった。「メル友」に関しては少数の学生にその存在がみられたが、友人関係の中心的な存在というわけではないと思われる。本調査では携帯メールを使って面識のない人とのコミュニケーションを求める傾向は明確には示されなかった。

また社会心理尺度との関係を見ると、社交性が高いほどメールの相手が多く、メールのやりとりが増えている。先のメール返信のエピソードはこうした社会心理要因による携帯メール行動促進の一面を示していたと推測される。

今回は、広島市内大学生を対象に、利用状況に焦点をあてたアンケートを実施した。したがって、今後、携帯メールの役割を明らかにするためには、地域性、年齢等を考慮し、継続して調査を行い各世代の比較を徹底して行う必要がある。

参 考 文 献

- Buss, A. H. 1986 『対人行動とパーソナリティ』 大淵憲一 (監訳) 北大路書房
- 江下雅之 2000 『ネットワーク社会の深層構造—「薄口」の人間関係へ』 中公新書
- 橋元良明・斑目幸司・小松亜紀子・アヌラグ カシャブ・栗原正輝 2001 「首都圏若年層のコミュニケーション行動—インターネット、携帯メール利用を中心に『東京大学社会情報研究所調査研究紀要』 16, 94-210
- 橋元良明・鈴木裕久・川上善郎・石井健一・辻 大介・李 潤馥 2001 「2000年日本人のインターネット利用に関する調査研究」『東京大学社会情報研究所調査研究紀要』 15, 59-144.
- 三上俊治・是永 論・中村 功・見城武秀・森 康俊・柳沢花芽・森 康子・関谷直也 2001 「携帯電話・PHSの利用実態2000」『東京大学社会情報研究所調査研究紀要』 15, 145-235.
- 内閣府政策統括官 2002 『情報化社会と青少年—第4回情報化社会と青少年に関する調査報告書—』
- 岡田朋之・松田美佐(編) 2002 『ケータイ学入門—メディア・コミュニケーションから読み解く現代社会』 有斐閣選書

記谷：大学生の携帯メールの利用態度に関する研究

資料1 調査質問票

生活における情報機器の使用についての調査

以下に回答をいただく質問は毎日の生活で情報機器をどのように使っているかを調べるものです。なお回答いただいた内容は研究目的のほかには扱われることはありません。

個人 1 あなたの性別を教えてください。 男 ・ 女

個人 2 あなたの年齢を教えてください。 歳

質問1 あなたは現在パソコン(ノート型を含む)をご利用ですか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

自宅でも学校・職場でも使っている	自宅だけで使っている	職場・学校だけで使っている	使っていない
1	2	3	4

(質問1で1, 2, 3のいずれかに○をつけた方におきします)

質問2 あなたがパソコンやワープロを利用し始めたのはいつですか。

□□□□年頃から

質問3 あなたはこれまで自宅や職場・学校などで携帯電話(PHSを含む; 以下携帯電話と表記)を利用した経験がありますか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

現在利用している	かつて利用していたが、今は利用していない	利用したことはないが、利用してみたい	利用したことはなく、利用したいとも思わない
1	2	3	4

(質問3で1, 2に○をつけた方におきします)

質問4 あなたが携帯電話を利用し始めたのはいつですか。

□□□□年頃から

質問5 あなたは携帯電話によるインターネットの情報サービス(iモード, EZweb, SKYwebなど)を利用したことがありますか。また利用したことがない場合興味をお持ちですか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

よく利用している	たまに利用する	利用したことはないが、興味はある	利用したことはなく、興味もない
1	2	3	4

(質問5で1, 2に○をつけた方におきします)

質問6 あなたは携帯電話でどのようなインターネットの情報サービスを実際に利用したことがありますか。あてはまる番号にいくつでも○をつけてください

1	新着情報・最新ニュース	10	ファイナンス(株価情報)
2	プレゼント応募	11	天気
3	待ち受け画面・着メロ・アプリ	12	便利ツール(カレンダー, アドレス帳, アルバム)
4	占い	13	グルメ
5	ムービー(映画情報)	14	路線情報(料金, 時刻表)
6	掲示板	15	アルバイト
7	オークション	16	学習
8	ショッピング	17	ケータイ新製品
9	ニュース・プロ野球ニュース	18	その他()

広島修大論集 第 44 卷 第 1 号 (人文)

質問 7 あなたは携帯電話単体での文字メッセージや E メール(以下メールと表記)を利用した経験がありますか。また利用したことがない場合興味をお持ちですか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

よく利用している	たまに利用する	利用したことはないが、興味はある	利用したことはなく、興味もない
1	2	3	4

(質問 7 で 1, 2 に ○ をつけた方におききます)

質問 8 あなたは携帯電話でどのくらいの頻度でメールの送受信をしますか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

1日に5回以上	1日に1回くらい	週に数回くらい	月に1回以下
1	2	3	4

質問 9 あなたは携帯電話を使ってメールを一日平均何通くらい受信しますか。

(一日平均で) 通くらい受信する

質問 10 あなたは携帯電話を使ってメールを一日平均何通くらい送信しますか。

(一日平均で) 通くらい送信する

質問 11 あなたは携帯電話でどのような内容のメールを送信・受信することが多いですか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

1 待ち合わせや訪問などの約束や連絡	4 そのときにあった出来事や気持ちの伝達
2 商品やサービスの予約・注文	5 特に用件のないメッセージ
3 仕事上の報告、連絡、相談	6 その他()

質問 12 あなたが携帯電話でメールを利用し始めたきっかけはなんですか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

1 友人・恋人・家族が利用しているから	7 待ち合わせの時間や場所の連絡に便利だから
2 おもしろいから	8 仕事上(学校の勉強上)の理由があったから
3 時間・場所にかかわらず利用できるから	9 購入した携帯電話の付属機能としてついてたから
4 以前ポケベルを利用していたから	10 パソコンがなくても E メールを利用できるから
5 テレビや雑誌などでみて興味をもったから	11 特に理由はなかったがなんとなく
6 通信費用が安くてすむから	12 その他()

質問 13 あなたはどのような時に携帯電話でメールを使うことが多いですか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

1 相手が電話に出られないとき	6 相手と電話で直接話したくないとき
2 急用ではないが伝えることがあるとき	7 自分が声を出して話せない場所にいるとき
3 早朝・深夜に連絡をとりたとき	8 ひまをつぶしたいとき
4 相手が忙しいと思うとき	9 パソコンの使えない環境にあるとき
5 複数の人に同じ内容を伝えたいとき	10 その他

質問 14 あなたが携帯電話でよくメールをやりとりする相手は何人くらいですか。

人くらい

記谷：大学生の携帯メールの利用態度に関する研究

質問 15 (質問 14 に関連して)それはどのような人ですか。あてはまる番号にいくつでも○をつけてください。またその中で最もやりとりする回数が多い人は誰ですか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

	やりとり する人	最も多い人 (1つだけ○)
自分と同じ場所に住む家族		
自分と別の場所に居る(実家などの)家族		
恋人		
ふだんよく会う友人		
ふだんあまり会わない友人		
仕事上の関係で同じ勤務先の人		
仕事上の関係で別の勤務先の人		
メル友(メールだけをやりとりする友人)		
その他(具体的に)		

質問 16 (質問 15 に関連して)最もやりとりする回数が多い人とはメールを使う前と比べて直接会う回数が変化しましたか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

増えた	変わらない	減った	元々会ったことはない
1	2	3	4

質問 17 (質問 15 に関連して)最もやりとりする回数が多い人とはメールを使う前と比べて電話する回数はどう変わりましたか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

増えた	変わらない	減った	元々電話しない
1	2	3	4

質問 18 (質問 15 に関連して)最もやりとりする回数が多い人に対する親近感メールを使う前と比べて変化しましたか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

増えた	変わらない	減った	元々親近感はない
1	2	3	4

質問 19 あなたは次のような絵文字を多く使ったメールを使うことがありますか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

いま👉👈からオマエも👉👈で来いよ

よく利用している	たまに利用する	利用しないが受け取った ことはある	利用しないし受け取った こともない
1	2	3	4

(質問 19 で 1, 2 に○をつけた方におききます)

質問 20 あなたは主にどういう目的で絵文字を多く使ったメールを使いますか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

1	メッセージを短くするため	4	親しみを示すため
2	感情表現をつけくわえるため	5	軽い雰囲気を出すため
3	楽しくするため	6	その他()

広島修大論集 第 44 卷 第 1 号 (人文)

質問 21 あなたはこれまで自宅や職場・学校などでインターネットを利用した経験がありますか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

自宅でも学校・職場でも使っている	自宅だけで使っている	職場・学校だけで使っている	使っていない
1	2	3	4

(質問 21 で 4 に○をつけた方におききます)

質問 22 あなたが現在インターネットを利用しないのはなぜですか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

1 利用する機器が自分のまわりがない	6 プライバシーの侵害や情報のセキュリティ(保護)が不安
2 電話代や利用料金が高い	7 とくに必要性を感じない
3 操作がめんどう	8 回線が混んでいてなかなかつながらない
4 おもしろい情報があまりない	9 インターネットが何かよく知らない
5 不快な情報・有害な情報が多い	10 その他()

(質問 21 で 1~3 に○をつけた方におききます)

質問 23 あなたはパソコンを利用したメール(以下 E メールと表記)を一日平均何通受信しますか。

(一日平均で) 通くらい受信する

質問 24 あなたは E メールを一日平均何通送信しますか。

(一日平均で) 通くらい送信する

質問 25 よくやりとりする特定の相手の数は何人ですか。

人くらい

質問 26 (質問 25 に関連して) それはどのような人ですか。あてはまる番号にいくつでも○をつけてください。またその中で最もやりとりする回数が多い人は誰ですか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

	やりとりする人	最も多い人(1つだけ○)
自分と同じ場所に住む家族		
自分と別の場所に居る(実家などの)家族		
恋人		
ふだんよく会う友人		
ふだんあまり会わない友人		
仕事上の関係で同じ勤務先の人		
仕事上の関係で別の勤務先の人		
メル友(メールだけをやりとりする友人)		
その他(具体的に)		

質問 27 最もやりとりをする回数が多い人とは E メールを使う前と比べて次のようなことはどう変わりましたか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

(ア)電話する回数

増えた	変わらない	減った	元々電話しない
1	2	3	4

(イ)直接会う回数

増えた	変わらない	減った	元々会ったことはない
1	2	3	4

記谷：大学生の携帯メールの利用態度に関する研究

(ウ)親近感

増えた	変わらない	減った	元々親近感はない
1	2	3	4

質問 28 あなたは、次の a~f のようなことのために、どのような手段を最もよく利用していますか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

	携帯電話のメール	電話で話す	パソコンのメール	会って話す
会合の連絡など友人との日常的な情報交換	1	2	3	4
友人とのとくに目的のないおしゃべり	1	2	3	4
目上の人に対して改まった頼みごとをする	1	2	3	4
友人に悩みごとの相談をする	1	2	3	4
目上の人にお世話になったお礼	1	2	3	4
友人からのプレゼントのお礼	1	2	3	4

質問 29 あなたには次の a~s のようなことがどれくらいあてはまりますか。あてはまる番号に1つだけ○をつけてください。

	あてはまる	あてはまる ときどき	あまりあては まらない	まったくあて はまらない
a.人と一緒にいるのが好きである	1	2	3	4
b.人といると、ぎこちなくなる方である	1	2	3	4
c.人づきあいの機会があれば、喜んで参加する	1	2	3	4
d.初めての人と話すのは、苦手である	1	2	3	4
e.仕事をする時は、1人でするよりも、人と一緒にしたい	1	2	3	4
f.よく知らない人と一緒にいると、緊張する	1	2	3	4
g.私にとって何よりも刺激的なのは、人とのつきあいである	1	2	3	4
h.人と話をする時、何か見当違いなことをいってしまうのではないかと心配である	1	2	3	4
i.広く人づきあいができなくなったら、不幸になると思う	1	2	3	4
j.偉い人と話す時は、かたくなる	1	2	3	4
k.初めての場面では、なかなかくつろげない	1	2	3	4
l.人に見られていると、仕事がうまくできない	1	2	3	4
m.パーティや行事では、いごちが悪い	1	2	3	4
n.人前では、とまどいやすい	1	2	3	4
o.人前では、かたくなる	1	2	3	4
p.人前で話をする時、不安を感じる	1	2	3	4
q.相手の目をまっすぐに見て話すのが苦手である	1	2	3	4
r.大勢の人の中にいると、緊張する	1	2	3	4
s.異性に対しては、いっそう内気になる	1	2	3	4

質問 30 あなたは一番の友達とはどんなつきあいかたをしていますか。あてはまる番号に 1 つだけ○をつけてください。

	あてはまる	あてはまる ときどき	あまりあては まらない	まったくあて はまらない
一番の友達は親切にしてくれる	1	2	3	4
一番の友達とは秘密の話をする	1	2	3	4
一番の友達には困っていることを話しやすい	1	2	3	4
一番の友達とは一緒にいるだけで楽しい	1	2	3	4
一番の友達とはたびたび会っている	1	2	3	4
一番の友達とはなんとなく気が合う	1	2	3	4

質問 31 あなたはふだん次の a~d のような人とよく話をしますか。あてはまる番号に 1 つだけ○をつけてください。

	よく話す	ときどき 話す	あまり 話さない	まったく 話さない
a.近所の人	1	2	3	4
b.親戚の人	1	2	3	4
c.父親	1	2	3	4
d.母親	1	2	3	4

質問 32 あなたは次の a~g のような気分や気持ちであったとしたら、どのような対応をしますか。あてはまる番号に 1 つだけ○をつけてください。

	友達に電話をする	テレビを見る	ゲームをする	友達を呼び出して 話をする	同居家族に話す	特に親しい人にE メール	多くの知り合いに Eメール	チャットする	掲示板に書く	何もしない
a.とてもよいことがあ った時	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
b.面白い話を知った時	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
c.さびしい気分の時	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
d.怒っている時	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
e.イライラしている時	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
f.暇な時	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
g.わからないことがで きた時	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10

ご協力ありがとうございました。

Summary

A study on the Attitude of College Student using Mobile Mail

Yasuyuki Kitani

Mobile phones and Personal Handy System (PHS) have already become indispensable for college student. A survey on use of digital tools and information behavior was conducted.

In order to find out the details about the current situation and effect of mobile phones, and Internet usage among the college student in Hiroshima city carried out a questionnaire survey during April 2003. Men and Women between 18–27 years of age were asked to reply to this questionnaire (N=423).

The following things became clear.

1. Mobile phones and PHSs are presently used by 95.5%.
2. More than 90% of the present users of mobile phones have accessed Internet through them and mostly used services were ringing-tone downloads and weather information.
3. Almost 95% of the mobile phone and PHS users have used text message or e-mail service.
4. Although approximately three-quarter of the users of these services are using them at least five times a day, but these messages are not of high importance. These are not very urgent messages and the objective is also not clearly defined.